

I 第18週の発生動向 (2007/4/30~2007/5/6)

1. 咽頭結膜熱については、上十三保健所管内において第14週から、むつ保健所管内では第16週から、**警報**が継続しています。
2. 伝染性紅斑については、むつ保健所管内において、第3週から**警報**が継続しています。
3. インフルエンザについては、県内6保健所すべてにおいて**警報**、**注意報**が解除となりました。詳細については、[インフルエンザ情報](#)に掲載しています。

II 第18週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方・青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数		定点	数	定点	数
(100) インフルエンザ	89	6.36	98	6.53	71	5.07	56	8.00	55	6.11	49	8.17	418	6.43	-476	12	6.00	77	6.42
(72) RSウイルス感染症			2	0.22									2	0.05	-1				
(73) 咽頭結膜熱	5	0.56	2	0.22					6	1.00	3	0.75	16	0.38	-15			5	0.63
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	1.11	12	1.33	1	0.11	2	0.40	8	1.33	1	0.25	34	0.81	-33			10	1.25
(75) 感染性胃腸炎	27	3.00	22	2.44	6	0.67	13	2.60	15	2.50	13	3.25	96	2.29	-102	4	4.00	23	2.88
(76) 水痘	12	1.33	1	0.11	2	0.22			7	1.17	4	1.00	26	0.62	-23	1	1.00	11	1.38
(77) 手足口病															-1				
(78) 伝染性紅斑					1	0.11	2	0.40	3	0.50	9	2.25	15	0.36	-22				
(79) 突発性発しん	3	0.33	1	0.11					1	0.17	1	0.25	6	0.14	-16			3	0.38
(80) 百日咳															0				
(81) 風しん															0				
(82) ヘルパンギーナ	1	0.11											1	0.02	0			1	0.13
(83) 麻しん(成人を除く)															0				
(84) 流行性耳下腺炎	8	0.89	6	0.67	10	1.11			1	0.17			25	0.60	-5			8	1.00
(86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎									1	0.50			1	0.09	-1				
(95) マイコプラズマ肺炎					3	3.00					1	1.00	4	0.67	2				

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
東地方	2	1	1	0	0
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
青森市	12	8	4	2	1
合計	65	42	23	11	6

■ は警報 ■ は注意報

「空欄」：患者発生数0

感染症の窓

デング熱

Dengue Fever

2007年4月、マレーシア Tuaran 郡において60歳代女性がデング熱により死亡するという事例がありました(2007/05/04 地元紙報道発表)。

本疾患は、デング熱ウイルスを保有している蚊(ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど)に吸血されることにより感染します。ウイルスは蚊→ヒト→蚊の感染サイクルで維持されます。流行地域は、アジアや太平洋諸島など熱帯亜熱帯地域など拡大しています(図)。

症状：3~14日の潜伏期間の後、発熱(38~40℃)、頭痛、筋肉痛、関節痛、発疹等の症状を呈します。これらのうち、粘膜や消化管に出血、鼻血などを伴うものをデング出血熱と言います。

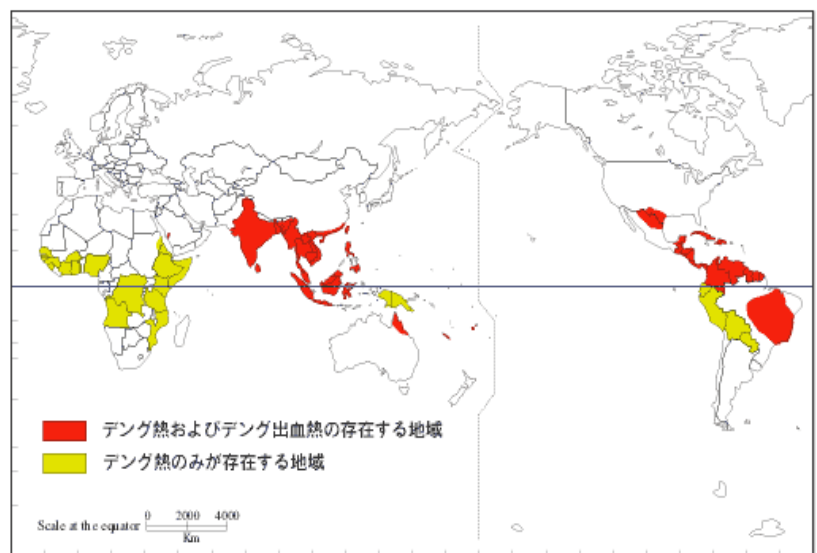


図 デング熱・デング出血熱の発生地域 (IDWRより抜粋)

感染予防⇒唯一の感染予防は蚊に刺されないことです。流行地域において、デング熱を保有する蚊は、都市部の側溝、水たまり、植木鉢の水受け、道路に放置された空き缶などの溜り水に産卵して繁殖し、主に日中活動し、屋内にも頻繁に入ってきます。従って、観光、仕事等で宿泊するホテルや空港で感染する危険性があり、素肌を露出しない服装で、虫除けローションを利用するなどの予防対策が重要です。